

鳥羽市議会行政常任委員会会議録

令和 4 年 9 月 9 日

○出席委員（13名）

委員長 浜口 一 利
委員 南川 則 之
委員 片岡 直 博
委員 河村 孝
委員 中世古 泉
委員 坂倉 広 子
委員 世古 安 秀

議長 木下 順 一

副委員長 瀬崎 伸 一
委員 濱口 正 久
委員 奥村 敦
委員 山本 哲 也
委員 戸上 健
委員 坂倉 紀 男

○欠席委員（なし）

○職務のために出席した事務局職員

事務局長 岩井 太
議事総務係書記 岡村 なぎさ

次長兼
議事総務係長 平山 智博

(午前10時20分 再会)

○浜口一利委員長 それでは、皆様、本会議に引き続き、ご苦労さまでございます。

ただいまから行政常任委員会を再会いたします。

早速ではございますが、協議事項に入ります。

本日皆様にご協議いただく事項は、お手元に配付の事項書のとおりでございますということで、この協議事項は2行書いてあるだけなんですけれども、ここまでそれぞれの班で積極的に活動してもらって、時間も大変取っていただいて、動いていただいたと思っております。

今日はその成果を発表していただく委員会ということと、また、今回、政策提言に至らず、途中経過でも私はいいいと思っております。今日の手順としては、調査報告書を提出してもらっていますので、それに基づいて、協議事項1のところを発表を、各班でまとめを中心に報告していただきたいと思っております。また同時に、まとめの主な点についても膨大な調査報告書も各班出ていただいておられますので、その中で説明があれば、付け加えていただきたいと思っております。

その次に、協議事項2ということで、政策提言の実施についてということなんですけれども、それぞれの班の意見を確認していただいて、一つずつ行政常任委員会としての政策提案にふさわしいかという言葉が多少きつくなると思うんですけれども、広く皆様方のご意見をいただいて、仕上げていただきたいなと思っておりますので、どうかよろしく願いをいたします。広い視野に立ってのご意見をいただいてということで、どうぞよろしく願いしたいと思います。

それでは、1班から順番に、私の思っているのは、そのような手順で今日は進行していきたいと思っておりますけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、そのように進めさせていただきます。

それでは、1班から報告をお願いしたいと思いますけれども、よろしく願いいたします。

南川班長。

○南川則之委員 1班の報告をさせていただきます。南川です。

私が班長ということで、世古安秀議員、浜口一利議員、山本哲也議員、片岡直博議員、そして私、南川の5名で1班は調査研究ということで、都市計画及びまちづくりについてということをやってきました。

令和3年6月から令和4年8月までの間で、11回という会議等含めて調査研究をやってきました。その中で、鳥羽商工会議所の中で、今、街・再興委員会、プロジェクトチームを発足して、19回の鳥羽商工会議所の会議を持ったということを確認しました。そして、その内容について、2回、私ら出向きまして確認をさせていただきました。それと、行政側の流れというんですか、担当課のほうも、かなり密に打合わせをさせていただきます、建設課のほうのやっている業務を含めまして、確認をしました。

それと、国の流れというんですか、都市再生整備計画の制度があるんですけれども、それが大分変わってきておるということで確認して、鳥羽市の今までまち交でやってきた流れと現状の流れも確認しながら、それと

同時に、鳥羽商工会議所からの提案のあった地区について、現状はどういうことになっとなるかということで、現況の報告も受けながら、内容の確認もさせていただきました。

そして、国が進める事業に三重県内で進めているところがあるということで、その中で委員の皆さんと協議をしまして、桑名市と伊勢市の行政視察を行っていきました。その中身を踏まえて、さらに検討を深めたということです。桑名市、伊勢市さんに視察を行うときでも、かなり民間と行政が手を取り合っやってという流れで、資料的にも別冊であるんですけども、かなりの説明を伺いまして、進んでいるなという思いをさせていただきました。

そういうところ全てをまとめまして、このまとめの最後のところを見ていただきたいと思います。そして、11回の会議の中で、最後のまとめを5人の全員でまとめましたので、それを少しそのまま報告をさせていただきます。

都市計画及びまちづくりとして、一つ目は、鳥羽市駅前から岩崎、錦町などのかつて中心市街地と呼ばれたエリアにおいては、まちづくり交付金事業で整備されて以降、大きな変化はなく20年以上もの間、課題である観光客の海側から街中への誘導ができておらず、民間の投資も進まず、駅前・佐田浜エリア一帯での盛り上がり欠けている。鳥羽商工会議所や鳥羽市観光協会などの民間団体とより強く連携を図りながら、まちづくりを進めていくべきである。

2点目としまして、鳥羽商工会議所からも要望が強く出されていますが、市の事業計画が先行しないと、国からの事業支援も受けることができないため、早急な事業推進が必要である。桑名市、伊勢市などの民間と連携し、駅前の再開発を行う手法を参考にして、財源は国の様々な交付金を最大限活用しながら、民間活力を十分活用して進めていただきたい。

3点目が課題としては、駅前や岩崎、錦町通りの閉鎖した店舗が放置されていることや活用されていないマリパークやまち歩きできない道路環境などであり、まちづくりを進める人材確保も必要である。計画の作成段階から地域おこし協力隊や国の人材派遣の制度を活用して確保する必要がある。

4点目は、鳥羽市には市民全員で共有できるような具体的な計画、鳥羽市のまちをこのようにつくってほしいという夢や未来図が必要である。民間や市民の参画を可能にするためにも、市長は強いリーダーシップを発揮し、市民とともに同じ目標に向かい進んでいただきたい。都市計画なくして、鳥羽市の明るい未来は創造できないと考える。ということで、1年間、鳥羽商工会議所との協議あるいは行政側のいろんな意見、それから行政視察を通じて、5人でこのようにまとめて、都市計画、まちづくりの鳥羽市の在り方ということで、所管事務調査を行ったということです。

班長からは以上です。

○濱口一利委員長 ありがとうございます。

引き続き、2班、濱口正久班長さん、よろしくお願いします。

○濱口正久委員 2班、デジタル化について中間報告、まだ途中なんですけれども、報告させていただきます。

調査事項は、デジタル化、市民サービスと自治体DXについて調査をさせていただきました。

目的としては、デジタル化を推進することにより住民の利便性を向上させるとともに、デジタル技術やAIの活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていくことを目的とすると

いうところから調査をさせていただきました。

調査期間は、昨年7月から開始をさせていただいて、委員は、坂倉広子委員、中世古泉委員、それから奥村敦委員と私、濱口正久でございます。

調査の経過なんですけれども、昨年度に、まず最初に、国や県の方向性を知りたいということで、8月に三重県デジタル推進局のほうとオンラインでさせていただきました。そのときには、議員の方々、有志の方々にも参加していただいて、お話をさせていただいたんですけれども、まだまだできたばかりで、昨年度の段階では、まだ方向性も定まっていないような状況が本音でした。

それから今後、鳥羽市において、まずどういうところを調査したらいいのかというところですね。なかなか調査がコロナ禍でできない中、静岡県の方にちょっとお邪魔したいということで、小山町というところ、それから袋井市さんにお邪魔させていただきました。期間は令和4年7月21日から22日にかけてお邪魔させていただいて、そこで、小山町のDXのガイドライン策定に当たった経緯とか、行政手続のオンライン化、それから公共交通のスマート化、自治体等地域活動のスマート化支援、各種業務のBPRの推進とか事務処理の自動化推進、行政情報システムの標準化・共通化と、これらに当たって、そこがちょっと小山町に当たっては、特筆すべきかなと判断した中で行かせていただきました。

このときは有志で行かせていただいたんですけれども、行った中で分かってきたことは、膨大な計画があって、物すごい資料があって、まず、計画の策定をして方向性を決めないと、個々にデジタル化をやっている、それが最終的には国の補助であったりとかというものを受けるに当たっては、やっぱり計画が必要だということが分かってきました。

行った中で分かってきたことは、国のアドバイザー制度を活用して、そこで民間から計画をつくるに当たってどういうことをしていったらいいのか、あとは市町、小山町だったら小山町の方向性について、ここは公共交通のスマート化で、全国でこの前2位か何か、投票ですごい高率を受けた町でしたので、それに当たってそういうようなことを活用しながらどういうことをデジタル化していったらいいのかというのを、うまく民間を活用してそこをうまく落とし込んでいったというような考え方でした。

次の22日には、袋井市さんのほうにお邪魔させていただきました。袋井市さんは鳥羽市と防災協定を結んでおりますので、呼んでいただければいつでも来ていただくということでしたけれども、このグーグルドライブのほうに入れさせていただいたんですけれども、袋井市さんは、かなり前からデジタル化に向けて推進していたと。これはもう2040年に職員数が半分に減るであろうという前提の下に、それに向かって行政サービスの低下を防ぐために、その手段としてデジタル化を導入していくというバックキャストिंगでやっていたような感じでした。

そこでも同じような話を聞かせていただきました。令和元年度から5年度にかけて第3次の袋井市さんのICT推進計画が今行われています。もう第3次になりますので、第1次が昭和62年から始まって平成元年に当たって、そういうような電子計算のところからスタートしていましたので、事業を進めるに当たり、職員のスキルアップをどのように図っていくのかというところもありましたけれども、これは民間の地域情報化アドバイザーという方を招聘して、これも県や国のきちんとした制度を活用して、民間からのアドバイザーを入れると。また、ICT推進計画策定に当たって、市民の意見をどのように聴取して取り入れたかについても、

コーディネーター導入や地域情報化アドバイザー、静岡県県の情報化コーディネーターによる民意の意見聴取とか、いろんなことをそういう方々を交えてやっていたということが分かりました。

その二つのまちに共通して言えることをお伺いしたんですけれども、自治体のほうの話になりましたので、自治体のほうに関しては、デジタル化をすることによって業務フローの見直しが図られたと。それによって業務の効率化、あとは接遇に関してもきちんとデジタルなので、数値化されることが結果的に大きなメリットとしてなつたと。それによって、空いた時間なり効率的に行政サービスを集中的にできるのではないかとということがありましたので、そこら辺のところは非常に分かりました。

あと、私たちは途中だということなんですけれども、民間の活用のところで、あとは移動診療車というんですか、診察車のようなところが長野県の伊那市というところがあるんですけれども、そこはちょっとコロナ禍でお邪魔できなかったのと、あとは、女性の働く場所として開発公社のような形のところで仕事を委託して、経理をやっているところが1年で2億円で6億という売上げを上げてあるところがございましたので、そこはちょっとまだ行っていないところで、中間とさせていただきます。

まとめとしては、デジタル化導入して目的及び期待できる効果としては、市民にとって行政サービスの効率化によるサービスの低下を防ぐという向上を招くということと、自治体が導入することによって業務フローの見直し、業務の効率化を図られるということで、最終的には、今の現段階での提案としましては、デジタル化アドバイザー制度を活用する（国）、デジタル専門人材派遣制度と地域活性化企業人、このようなものをまずは活用してアドバイザーを導入して意見を聞くということと、それから2番目に、計画の策定、鳥羽市の総合計画と国との計画の整合性を図り策定することにより、制度を活用し、促進を図り、制度の恩恵を受けるところが必要ではないかなというところが今現在のところ。また何かつけ足すところがあれば。

○**浜口一利委員長** また後ほど、いろいろ意見を各委員から伺いたいと思いますので、引き続いて、3班、よろしくをお願いします。

瀬崎伸一班長さん、お願いします。

○**瀬崎伸一委員** では、3班の調査結果報告についてお話をさせていただきます。

3班が扱いましたテーマは、遊休未利用地の有効活用についてというテーマでございました。

担当いただいた委員は、河村孝委員、坂倉紀男委員、戸上健委員、そして私、瀬崎伸一でございました。

まずをもって、遊休未利用地ということで、やはり鳥羽市の財産の中にどの程度存在するのかといったところ、少し広くとらまえて、開発公社等々の管理しているような物件もどの程度あるのか、実像がどの程度あるのかということから、まず掘り下げていくべきということで、調査の経過としましては、まずは開発公社の聞き取り調査を行わせていただきました。そのときに提出いただいた資料もあるんですけれども、すごく膨大な量になりまして、規定等はございませんけれども、どの程度あるかという説明を受けました。

その次に、契約管財係に指示を議長名で出していただきまして、検索条件を原野、山林、宅地、雑種地といった地目の中で1,000平米以上のものがどの程度遊休状態にある財産として持っているのかというようなソート条件でデータを出していただきました。

経過報告書の次のところに普通財産とかいう表記から航空写真までで、結構分量多いと思います。たくさん出てきました。結果としましては、宅地、雑種地については1,000平米以下も含ませたという追加条件も

出しまして、397筆の筆数、面積にすると656万2,017平米、これは平方キロに直しますと6.562017平方キロになる面積のものがあるという回答結果を得ております。

それを受けまして、どのようにこの遊休未利用地を活用していくべきなのかという観点で、行政の手法を調べたいとも思いましたけれども、まずは、活用するのはやはり民間であろうということで、民間との連携がどのように図っていけるかという趣旨の下、令和4年7月21日に大和リース株式会社、四日市にございます、聞き取り調査に行っていました。そこでは、いわゆるPPP、パブリック・プライベート・パートナーシップ、官民連携というところのテーマでお話をいただきましたけれども、結構踏み込んだところまで話をお伺いすることができ、やはり鳥羽においてもこういった手法を取り入れていくべきであるということを確認させていただきました。質問事項等々は結果報告書にまとめて入れてあります。そのときにいただいた官民連携事業のご説明という資料についても、一部抜粋ではございますけれども、今回のテーマに沿ったところのものはつけさせていただきました。

それと併せて、横浜市のほうにも、これは文書回答を依頼いたしました。これの趣旨としましては、いわゆる市有地ポータルサイト、行政が持つ財産をマッチングする用のサイト、平たく言うと今、鳥羽市でもやっておりますいわゆる空き家バンク、そういったもののイメージの土地版、もっと広げた財産版といったものを横浜市のほうがもう既に構築をされておりましたため、その辺の経緯と、どういった運用方法をされているのかといったことの質問をさせていただき、回答をいただきました。この点についても、表記をさせていただき、最後に参考資料としてつけてあるのがいわゆるサイトを印刷したものでございます。とてもまとまっておりますので、ぜひ鳥羽市にもこういったものが必要なのではないかというような話合いでございました。

それ等々の調査結果から、我々は一応、政策提言という形で6番、まとめさせていただきましたので、最後に一読をさせていただきます。

先進地調査、民間事業者調査を行った結果、遊休未利用地の有効活用について、以下を政策として提言するに至りました。

①公有財産の「見える化」の推進。

横浜市の例を示したように、ただ保有するだけの「財産」という位置づけではなく、「資産」として活用するといった方向性が重要と考えます。横浜市だけではなく、他の先進事例においても、資産活用基本方針策定が多く見受けられました。実行に至るプロセスとして必要なら、早期の構築が必要です。また現在、鳥羽市にも、空き家バンクポータルサイトは存在します。年々、その精度向上が見られることから、公有財産についても、相互リンクが図れる体制づくりこそが急務と考えます。遊休未利用とくくり、いわば手つかずで放置するのではなく、公有財産においても、例えば、税務課使用の航空写真等に所在明記するなどの作業をもって、不動産取引に必須となる現況写真とするなど、早急のデータ化、そして公開、いわゆる見える化を推進すること。

②サウンディング型市場調査、PPPの導入推進。

民間事業者への聞き取り調査を通じて、鳥羽駅周辺の高付加価値物件や廃校活用など、民間との対話、いわゆるサウンディングを通して、事業構築する有効性は非常に高いと実感しました。ニーズを的確に捉えた事業化、財産活用策構築が急務であり、かつ成功への最短ルートになり得ると考えます。サウンディング型市場調

査を早急に実施し、PPP導入を含め、公有財産の利活用を推進すること。

このような形で3班の意見としてはまとめさせていただきました。

別添のほうに、航空写真にこの位置図と言われたものの例示のような形ですけれども、こういうものもつけさせていただきます。ご確認ください。

以上です。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

1班から3班までの調査結果の報告が終わりました。

委員さん方も新型コロナウイルス感染症の影響により身動きが取りにくい状況にもかかわらず、視察等を実施するなど、意欲的に調査研究に励んでいただきました。本当にありがとうございます。また、初めての試みということなんですけれども、大変中身の濃い報告が今日聞かれたということで、大変感謝をしたいと思えますし、うれしく思っております。

それでは、続きまして、協議事項2、政策提言の実施についてに入りたいと思います。

先ほど説明をいただいた各班の調査結果及び事前に提出していただきました調査報告書の内容を踏まえて、政策提言を実施するために、各委員全員で内容の精査を行いたいと思います。先ほども言ったんですけれども、協議するというのは、なかなか厳しい意見もあろうかと思えますけれども、忌憚なく、このあたりはご意見を伺いたいと思います。

それでは、各班、1班から2班、3班まで順次、協議していきたいと思います。

まず、1班について、内容については政策提案までというような、そのようなご意見だったと思うんですけれども、そういうことについて、その内容について1班の政策提案の部分について、各委員の皆様方で協議検討していただいて、行政常任委員会としての提言になるようなご意見をいただきたいと思いますので、順次行いたいと思います。

1班の政策提案についてご意見があれば、お願いしたいと思いますけれども。

どうぞ。

○河村 孝委員 1班さんの政策提言、大変勉強になりました。特に、3班とかぶるところも、駅周辺なんかはもう3班が遊休未利用地だけではなく公有財産の有効活用と、既に活用されておるところもさらにもっと有効に活用できないかという視点も入れて調査研究させていただきましたので、かぶるところも出ているのかなというふうには思うんですけれども、まさしくこの4番に書いてもらっている市長の強いリーダーシップというところと、2番の市の事業計画が先行しなければならないというところは、まさしくそのとおりだと思います。

今の現段階において、特に駅周辺というのは、観光に特化した観光特化型のまちづくりが必要であるというふうにも思っています、そこに対する市長の思いであったり、執行部のランドデザインであったり、そういったものがなかなかないし、出てこない、具体的な案がですね。今の段階でそういうことがないというところで、どの方向に、どのベクトルに進んでいくのか、民間もその選択ができないという状況が起こっていると思うので、ぜひこの1班さんの政策提言をしっかりと出していただいて、執行部にはしっかりとそういったランドデザイン、ランドスケープを描くというところまでしっかりと仕上げたいなというふうには私は思います。

ちなみになんですが、7月27日に、市長の音頭で鳥羽駅周辺まちづくり意見交換会というのが民間の方々
に声をかけてありました。私、オブザーバーで参加させていただいたんですけれども、その中で、市長が司会
進行をしながら言っていた自分の思いというのが、ポイントが4点ありまして、まず1点目が鳥羽駅の改札か
ら国道をまたいで海が見える景色を有効活用するべきだということでのペDESTリアンデッキを一つ市長は
言っておられました。2点目が海を利用した駅前をしたい。3点目が鳥羽駅からマリナーミナルまでの雨風
がしのげるようにしたい。4点目がいろいろな案内、看板も含めてですけれども、志摩、伊勢を含めて、もっ
と分かりやすいようにしたいと、この四つの思いをポイントとして市長自身は述べておられました。

そのポイントについて、参加されたところが商工会議所、観光協会、鳥羽旅館組合、青年会議所、ロータリ
ー、ライオンズ、パールビル管理組合、1番街、マルシェ、岩崎町内会、錦町町内会、離島町内会の代表、バ
リアフリーツアーセンター、志摩建設事務所、開発公社というようなところの方々が集まって、それぞれの意
見を出していただきました。なかなか時間の制限があって、それぞれの意見が短くて、ちょっと議論し切れな
かったというのが第1回目だったように思います。オブザーバーでも意見どうぞと言っていたので、そ
の中でも、こういった会議をもっと続けて、鳥羽駅周辺のランドデザインを市長は作り込むべきであるとい
うところは私のほうも市長に意見させていただきました。この1回だけで終わるのではなくて。それが多分
1班さんのおっしゃった政策提言につながるのではないのかなというふうに思います。

私からは以上です。

○**浜口一利委員長** 河村委員のほうから1班のまとめの四つの点ということにならうかとは思いますが、
も、そのあたりを中心にしてというような、沿ったようなご意見をいただいたと思うんですけれども、今回ボ
ードのほうも用意してありますので、1班の意見書、政策提言案について、このような形でいいかどうか、具
体的に今のような、特に4番とかというようないろいろご意見があるかと思っておりますけれども、各委員のご意
見を伺いたいと思っておりますけれども、どうでしょうか。

戸上委員。

○**戸上 健委員** 1点質問なんですけれども、1班の資料を拝見しまして、膨大な資料で、随分僕もこれは勉強
になりました。それを踏まえて、この2点目に市の事業計画が先行しないといかんという指摘があります。今、
駅前・佐田浜エリアでいろいろ開発行為というのが進んでいますけれども、これまでもカモメの散歩道、あ
あといったものも手がけられております。全体の事業計画があって、そのうちの一つでああいうカモメ散歩道をつ
くったということになっておるのか、全体の事業計画はないけれども、個々に毎年、つぎはぎのような形で進
めておるのか、そのあたりはどうなんでしょうか。この事業計画が先行しないと国からの事業支援も受けるこ
とができないためというふうになっております。各課横断のプロジェクトチームがあって、駅前・佐田浜エリ
アの総合開発計画というのは、それは今、市にないために問題だという指摘なんでしょうか。それを持ってとい
う指摘なんでしょうか。

○**浜口一利委員長** ただいま戸上委員のほうから、2番についての質問ですね。班長さん、この市の事業計画が
先行しないとこのあたりの文面を加えたということについて、調査報告書の書類とか桑名とか伊勢市の
いろいろ事例があります。そのことも踏まえて説明をお願いしていただいて、戸上委員の質問に答えていただ
ければなと思っておりますけれども、どうでしょうか。

お願いします。

南川班長。

○南川則之委員 戸上委員のご質問に少しお答えさせていただきます。

まず、調べた中では、当然、商工会議所も全体のエリアのそういう構想がないということを言われています。会議所も岩崎周辺をどうしたらいいかということでいろいろ議論しておる中で、全体の構想の中で、全てを一遍にやるのは難しいから、まずはその中でも中心となる場所を選定して、そこから手をつけていったらどうかというところを言われていました。

それと同時に、戸上委員が言われたカモメの散歩道をやったりとか、妙慶川付近のまち交をやったりとか、単体ではそれぞれ行政側もやってきておるんですけども、そういったつながりとかそういうところがないということで、継続した事業計画はないということです。それやとやっぱりあかんと。それで、行政視察に行った桑名市とか伊勢市なんかは、全てそういう全体計画の中で毎年どうしたらいいかというところをやってきておって、それが功を奏しておるということと、伊勢市なんかは一番スピードアップして、中心市街地の活性化をどうしたらいいんやということを一生懸命、伊勢の商工会議所と民間の力をかりながらやってきておるという事例を聞きました。

そんな中で、今言うたように、ハード面の整備は当然必要やけれども、それだけではあかんということで、今は、国の交付申請もソフト面の事業についても国が予算をつけるということで、伊勢はそんなら何をしてきたんやというと、今やっておる伊勢の花火とか、鳥羽もやっていますけれども、そういったところにソフト事業を充てて使っておるとか、お伊勢さんマラソンをやっていますけれども、そういったものも中心市街地の活性化というところをポイントに置いて交付金を取ってきておるという、そういうソフト面的なところもやってきておるというて、ハード面とソフト面と併せてやったらさらに活性化するという、それと同時に、空き家対策はどうするんやというところとか、新道のあたりをどうしていくんやというところも、そうしたハード面とか、あるいは下水道の処理は今後やっていきましょうとか、そういうことも含めて、全体の構想をしながら、ある程度期限を決めて、こういう地区はいつ頃やりましょうということで構想してきておって、それが中心市街地の活性化につながっておる、観光客が増えたりとか、そういう中心市街地に人が集まる工夫をしているということですので、それが一番、鳥羽には今欠けておるところと、やっていかないかんところやないかなということで、今、鳥羽商工会議所の話をしましたけれども、そういう民間が自分らでこうやって19回もまちをどうしたらええかという議論をしておるときに、行政と一体になってやってほしいなというのが我々のまとめの考え方ということなんです。

○浜口一利委員長 1班としては、政策提言としては、この4点ということで提案させてもらっているんですけども、これを一つずつ、とにかくこれでいいのかどうか、そのあたりで、ただいま2番についてもご意見いただいたところなんですけれども、他にございませんか。

先ほど河村委員のほうからは、4番についての関連の、こんなようなことも、これはいいとか悪いとかということでもいいと思うんですけども、これはちょっとどうかというのがあれば、このあたりはもう少しさらに強めてほしいとかというのがあれば、ご意見を伺いたいと思うんですけども。今、4番とか意見出たところなんですけれども、この内容でどうですか。局長、この提言の形というのはこんな形でええんかな。

○岩井 太事務局長 この形でいいです。

○浜口一利委員長 いいですか。はい。

河村委員。

○河村 孝委員 南川委員の説明を受けて、ポイントは、今、都市計画を策定してもらっていますが、鳥羽全体の計画と一緒に語ってもなかなか難しいと思うんですね。離島地区には離島地区の事情があるし、駅周辺、南鳥羽に関しても加茂地区に関しても、それぞれ土地柄も違うわけですし、ただ、やっぱり今回、1班さん中心になってやってもらった駅周辺についてのまちづくりというのは、僕はもう観光、特に観光客の入り込み客数、誘客をどうやって増やすかで、来ていただいたお客さんの満足度をどうやって上げていくかというところに特化してまちづくりを進めるべきではないのかなというふうに私は思っています、それが駅周辺のまちに波及効果として伝わるという形が目指すべき駅周辺のまちづくりではないのかなというふうに私は思っています、その辺を観光誘客、満足度のアップというところをどこかの文言に付け加えていただいてもいいのかなというふうに思うんですけれども、その辺は皆さんで検討していただければどうかなと思うんですけれども。

○浜口一利委員長 誘客促進、満足度アップのまちづくりというような文言をとというような意見がございますが、はい。

○南川則之委員 私、班長で今、いろいろ説明してもらおうんですけども、できればこのまとめは1班のこの5人の方の思いが物すごく入っておって、それを私がまとめただけで、できれば山本委員とか世古委員とか片岡委員の思いというのを聞いてもらって、やっぱりどうやってまとめてきたかというのも、本当にもう会議所との協議も、本当にすごく突き合わせてやってきましたので、そこら辺ちょっと、もし意見を言うてくれるんですしたら聞いていただきたいなと思います。

○浜口一利委員長 山本委員。

○山本哲也委員 1班の提案についていろいろとご指摘をいただいておりますところではございますけれども、通して、いろいろと視察等で聞いてきて、あとまた会議所さんですとか、いろんなところと意見交換しながら進めてきたわけですが、やっぱり感じたのは、会議所さん、要望でも出ていましたけれども、岩崎の民間の土地だけじゃなくて、マリパークであったりとか市の公園のところも有効活用をさせてほしいとか、活用しようやないかというような案の中なので、それも、そこだけどうしようという考えをしとつてもあかんのかなというところで、そこをいじるんやったら全体的な流れの中で、じゃ、そこをどういうふうにしようという考えが要るんじゃないのというところから多分スタートしてきておるところやと思っています。

伊勢にしても桑名さんにしても、やっぱり5年後、10年後、こういうふうなまちになっていますよというような、誰もが共通でイメージできる絵というのがあって、実際そのとおりになっていておるんですね。その中で、じゃ、民間さんがどんどんと投資が入って、新しい施設ができたりですとか、駅前にマンションができたり、そこに新たな住民が動いてきたりとか、狙ったとおりに、効果が出てきておるんやなというのが視察で学んできたところの感じですね。鳥羽に戻ってきて、今おる議員の皆さんの中でも、10年後、20年後の鳥羽駅前がどうなっているかって、多分皆さんそれぞれイメージが違ってしまっておたりとか、もう想像さえつかへんような状況であるというのは、多分あかん状態なんじゃないかなというふうに思っています。

戸上さん、質問してもらいましたけれども、カモメの散歩道ができたりとか、いろいろと触ってはいますけれども、やっぱりどうしても点の整備になってしまつとるんじゃないかとか、我々もずっと言っていましたけれども、カモメの散歩道からターミナルに向けての堤防の工事がもう済んでしまいましたけれども、あれも本来やったら、カモメの散歩道が延長でずっとあったほうがよかつたんじゃないかとか、それも何でそうならへんだかという、鳥羽市としてそういうふうな、あのエリアをどういうふうなエリアにするかとかというふうなあれがなかったんじゃないかというところで、河村議員がオブザーバーで出てもうて、市長はこういうふうなに駅にペDESTリアンデッキ、そういったデッキをつくりたいと言っても、そのデッキをつくるだけではあかんやないかという話なんですよね。どういうエリアにしたいからどういうデッキが必要でというところまでちゃんと考えて、全体を考えなあかんよねという、なんせ鳥羽には全体を皆さんでイメージできるものがないんじゃないかと。

我々市民が共有できるということは、民間事業者も共有できるということなので、そうなれば、じゃ、そういうエリアだったら投資をしようかという話にもなるでしょうし、どんどんそういったプラスの転がり方をしていくんじゃないかというところで、やっぱりこういうふうな提言は必要なんじゃないかというところでまとめ上げたところなので、我々の委員会の自画自賛じゃないですけれども、気持ちはこういうふうなところで籠もっているんで、このまま出していただいても僕はいいんじゃないかなと思っておりますけれども。

○**浜口一利委員長** 今日この委員会としても、初めての試みで、手探りで進めていくという流れなんですけれども、1班としては四つのこの提案でというような思いで報告させてもらっているんですけれども、ここで多くのご意見をいただいて、また1班で検討して、また直すというようなこともありだと思つたので。

山本委員。

○**山本哲也委員** 今、河村委員からもこうしたらどうやという、そういった視点を持たせたらどうというところもそうやと思つたんですけれども、その辺は我々、特に観光のためにとかというところでやってこなかったところがあつたので、そういった気づきを与えてくれたりとかというのはあるかと思つたので、もっとこうしたらよくなるんじゃないかとか、逆にやっぱりここは要らんのかなというところは、どんどん意見をいただいたほうがいいかなというふうには思つていますし、ある程度こういうことが必要なん違つかというものは、多分恐らく皆さん共通の認識はできているんじゃないかなというふうには思つていますので、その思いをやっぱり執行部に届けるためにも、よりよい提言になればなと思つていますので、ぜひぜひ忌憚なきご意見をというところですよ。

○**浜口一利委員長** 1班としてはこのような提案を報告させてもらっているんですけれども、この際、皆さん方のご意見を聞いた中で、また後で修正もありというような、そのような形でもいいかなと思つたんですけれども、そういうことで各委員の皆さん方、意見をお願いしたいと思います。今、河村委員のほうと戸上委員のほうからもいただいたところなんですけれども、私としては、委員長のあれとしては、ここで決めてもらいたいんですけれども、なかなかそのあたりは厳しいと思つたので、後ほど各1班でまた協議したのを事務局とも相談しながらということでもええかなと思つたんですけれども、とにかく、ここでは各班の提案についてご意見を広くいただきたいと思つています。

引き続き、1班のこの案についてご意見はございませんか。

世古委員。

○世古安秀委員 1班でいろいろと時間をかけて、いろいろと班長を中心にすごい資料とかそんなのをまとめていただいたんですが、1班は私も参加して、一番はやっぱり中心市街地、4番にあるように、駅前の未来図、夢がきちんと市は出されていないんじゃないか、ほかの市へ行くと、鳥瞰図で、こういうふうになりますよというふうな、マリンタウンのときにはそういうふうなものを出されたりしましたので、ああいうのがあると、鳥羽の駅前はこのようになるんやというふうなイメージもわくんですけども、それが全然出されていないというところで、それをやっぱり市長のリーダーシップを発揮して、きちんと出してほしいというふうなところ、4番は一番やっぱりポイントになる、強く言いたいというふうなところでもあります。そういうことをすることによって、また民間も事業者も参入もしやすいということもありますので、その辺がまず、いの一歩になるのかなというふうに思います。

○浜口一利委員長 ほかに、1番、2番、3番、4番、四つここに。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 すみません、私たちは2班で、デジタル化のところをやっているんですけども、本当にデジタルが進めば、行きたいところがどこに行きたいのかという個人の目標が、この観光は行きたいよねと、離島へ行きたいよねとなれば、今スマートフォンで自分の行きたいところへ行けるということが一つ達成されていくんだなということ勉強会の中で学んだんですけども、選ばれる鳥羽市を目指して観光との融合というんですか、切れていくことのないようにしていくことがとても大事なのではないかなと思ったんですね。なので、この要望というのは、やっぱり研究していただいているので、この形で上げられたらいいのではないかなと思うんですね。

先ほど世古委員さんも言われましたですけども、未来に向かってというのであれば、やっぱりちょっとデジタル化も入れていただいて。まだちょっと途中なんですけれども、そういうところをISO、何かすみません、ちょっと横文字に弱いんですけども、そういうふうな、何か国もそっちのほうを目指しているところもあるんですね。Society……。

○浜口一利委員長 一旦は、まちづくりの提案なんですけれども、2班さん、デジタル化と当然重なってくる部分もあると思うんで、まちづくりの提案として、これはこれで、デジタル化の提案についてはこんな長所もありますよという報告があればいいと思うんで、この四つの中でお願いしたいと思います。

○山本哲也委員 今、広子さんは、一般のまちづくりの提案の中にもデジタル化を入れるということをおっしゃっているということですか。

○浜口一利委員長 この4番に入れてくださいということなんですけれども、なかなかどうかと。

○坂倉広子委員 将来を見ていくということであったので、もう私は意見ですので、あくまでも。そういう行きたいところへ行ける時代になってきたということですね。観光を目指す私たちがもし観光で行きたいところへ、それとどうぞ来てくださいという鳥羽市のイメージもつくるわけでしょう、このまちづくりの中では。なので、そこをちょっと言わせていただいたんです。すみません。

それと、実は、大きい目線で考えていくと、三重県がリニア化していくという亀山市でしたか、亀山市がすごいまち開発しているということで、すごくきれいに、私もちょっと行かせてもらったんですけども、何か

古いイメージから新しいイメージにまちがなってきた、産業がされてきて、すぐく開発されているというのを聞かせていただいたんですけれども、そういうのも含めて、昔と今のまちを融合させていくというんですか。亀山も関宿でしたか、何かそういうのがあるんですよね。

○浜口一利委員長 広子委員、途中だけでも、この4点について、ちょっと絞った意見で。

○坂倉広子委員 そうですね。すみません。

○山本哲也委員 そういった視点も入れろということやとは思いますが、どういったまちづくりをしていくかというよりは、まちづくりをしていくために何をしたいかなあかんなかかと言いたいかなと思っておりますので、それは、実行段階においてそういったことでの話なのかなと。そこに行くまでに、まずこれが必要やろということを今回提案で出していければなというふうに思うので、その辺は、まだちょっと今回の提案に含めやんでもいいのかなというところはありますけれどもね。

まずそれを進めるために、そういう計画をつくりましょうということなので、その辺は計画の中に入れていく話かなというふうに思っていますので、デジタル化であるとか新しいこれからの選ばれるところというところは、どういう計画にするかという話やと思うんですね。我々提案で言いたいのは、まずその計画を皆さんでつくっていきましようという話をするべきかなというふうに思っていますので。

○坂倉広子委員 そこはやっぱ大事なところだと思います。計画というのが共通していると思うのは、デジタル化のほうでもあったし、見に行ったときに、やっぱり計画がないとできないというすごい壁があるということを感じかせていただいたので、まず大事な4項目というのを上げられるということは、私は賛成です。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。計画がこの2番について重要なところということですね。

南川班長。

○南川則之委員 山本委員と全く同じですね。この4項目を上げるときにも、調査研究の中では、商工会議所が本当に奥の奥まで考えたこと、書いてありますけれども、聞きながらやってきた中で、それを一つのポイントとして上げるんじゃなくて、1番に書いてあるように、そういった民間団体とより強く連携を図りながらまちづくりを進めていってほしいとか、あるいは、そういうさっきから話題にでておる早急な事業推進が必要であるとか、そういったところを踏まえて、大きなテーマとして今回の4項目を上げましたので、これが生かされれば次の段階に移るというところは、しっかりとまた今後議論していけばいいことやもんで、まずこれがないのに個別のことを上げていても、そんなことをやることも多分ないやろうし、しっかりとそこをやってほしいという思いでやっていくということで、1班はこれを上げて、先ほど河村副議長が出てもらって、これ以上のいろんなことも加味してとか、あるいは2班、3班のことも加味して、しっかりとそういう提言に結びついていくのがいいのかなと思いますし、その辺は委員長、副委員長で考えてもらってやっていただければありがたいなと思います。

○浜口一利委員長 いろいろ四つの提言案についてご意見いただいておりますが、他にございませんか。

1班、今日、先ほども言ったんですけれども、またこの意見を踏まえて各班で協議してという形で仕上げるということでええかな。この4点について、1班としては、提案させていただいておりますが、この四つについて提言に持っていくという形でよろしいですか。

濱口委員。

○濱口正久委員 土山さんの講習会にもありましたけれども、今まで各議員が一般質問等々でいろいろこういうまちづくりについて多分発言されてきたと思うんですけれども、それを議会として、委員会として、きちんとまとまった意見として方向性を見据えるこのまちづくり、この駅前に絞ったところですね。すごくいいと思いますので、これ、ぜひとも進めていただきたい。

○浜口一利委員長 分かりました。また今日のこの皆さん方の意見を踏まえて、班で協議した中で、事務局とも相談しながらいい形に仕上げて、提言まで行きたいと思いますので、そのあたりはどうかご承知おき願いたいと思います。

5分ぐらい休憩しようか。5分休憩します。

(午前11時23分 休憩)

(午前11時28分 再開)

○浜口一利委員長 休憩前に引き続いて会議を再開したいと思います。

引き続いて、2班の報告をいただきましたが、2班としての考え方というのをちょっとお聞きしたいと思えますけれども、確認なんですけれども、最終的には提言という形に持っていきたいという意思の中での、今日は中間報告ということでよろしいですね。

班長。

○濱口正久委員 2班なんですけれども、まだ今調査途中という段階なんですけれども、実際、ここにも途中でも書かせていただいた、どういうことをやりたいかというところの計画がまずないといけないということがありますので、どういうふうにそこを提言していくかというのは、ちょっと今決めかねております。ちょっとさっきのところの補足なんですけれども、これ、皆さんのところのドライブに入っているかと思います。小山町のガイドラインの資料の中に、最初はこれ、どこもそうだと思うんですけれども、なぜデジタル化をするかというところで行くと、行革に使えるからというところなんです。行政改革のところにあるからというのがおおむねあったかと思います。それから、袋井市さんの資料なんですけれども、袋井市さんの資料を見ていただきますと、5のDXの推進の中で、一番大切なところは、あくまでもデジタル化は手段であり目的ではないので、その自体を進めるということではなくて、この8ページから9ページのところに推進計画が袋井市さんは進んでいますので、最終的には一番下に書かれてある目標があると思うんです。鳥羽市の場合は、これ海の恵みがつなぐまちやと思うんですけれども、そのために施策の効果があって、施策の課題がその上にある。その施策の課題のためにどういうデータを活用してデジタル化を進めていくかという計画をきちんとつくりたいと、今やっていることがばらばらになってしまうので、そこから次の10ページのところに、防災であったりとかまちづくりがあったりと、次に活用していく。それが1、2というところのイメージ図があったと思うんです。先ほど広子議員からもありましたけれども、鳥羽市の場合は広範囲に、離島も含めて分かれていますので、情報の共有をいち早くせないかんというのが当然のことと、それを観光客も活用できるようなものにしていかなければいけないというのが一つあると思うんです。

あと遅かれ早かれデジタル化の波というのは必ず来るので、それをどういうふうな段階でどういうふうに活用していくかというのは非常に大事だと思われるので、まず推進計画の中をしっかりとつくっていただかない

と、多分鳥羽市としてはどういう方向性なのかというところがあって、私たちが今推進計画の中に鳥羽市としてはどういうところで、ここここをこういうふうなの活用できるのでこういうふうなものをつくってほしいというところまでまだ至っていないというような段階です。

なので、ざくっと話をできるとしたら、やっぱり計画は当初には必要なのではないかなというところぐらいしかまだできていないので、今後、引き続き調査させていただければとは思っております。見えない部分のところなので、見える化をしたいと思います。

○浜口一利委員長 2班のほうから、引き続いて補足説明という形で、班長のほうから補足説明していただいたんですけども、他にこれまでの2班の報告について、このあたりはどうですかとか、いろんなご意見があれば伺いたいと思いますけれども、どうでしょうか。デジタル化を調査していただいているけれども、このあたりについてはどうですかというようなご意見があれば。

このまま2班さんの動きを注目したいということであれば、それでいいと思うんですけども。

河村委員。

○河村 孝委員 ちょっとDXのところは、テーマが物すごく大きいところなので、なかなか時間がない中で、ここまでよく調査していただいたなというふうに思います。各班そうだったと思うんですけども、なかなか議会改革のほうにちょっと時間がかかり過ぎて、またこのコロナ禍というところで各本当に行きたいところの視察も何件も断られた中でぎりぎりの調査報告になっているのかなというふうに思うので、正久議員おっしゃったように、取りあえず政策提言するのであれば、この9月というところで目標にしてみましたけれども、せっかくここまでやっていただいたんです。3月まで今年度もう少しありますので、2班さんには引き続き時間的にやれるところだけでもやっていただいて、ある程度その辺の報告をまたしていただければいいかなというふうに思います。

○浜口一利委員長 山本委員。

○山本哲也委員 DXというところで、僕もこれすごく非常に興味を持ちながら、今も調査研究を進めているんですけども、このDXをすることで行政がどういうふうに効率化できて、どういうふうなところを目指していくかというところよりも、できれば市民目線に立っていただいて、市民にとってどういった利益があるかとか、効率化されて市民サービスの目的のところの最後かな、市民にとって行政サービスの効率化によるサービスの低下を防ぐことが効果として上げられていますけれども、そうじゃなくて、実際にDXが進むことで、市民としてどういった恩恵が受けられるかというところは、いろいろと調査、多分行けていなかったとかというところで止まっておるところやと思うんですけども、これからちょっと進めていただきたいなというふうに思いますし、デジタル化の波はもう既に来ておる、これからじゃなくて、今もうまさに真ただ中の中なので、波に乗り遅れることなく進めることで、若者世代ですとか子育て世代とか、そういったところの鳥羽市に対するあれも変わってくるのかなというふうに思いますので、そういったところの目線を入れていただきながらぜひ引き続き調査研究を進めていただきたいなというふうに思います。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

2班さん、そのあたりも含めてということで。

奥村委員。

○浜口一利委員長 奥村委員。

○奥村 敦委員 今、山本委員に言っていたことは、まさしくそのとおりで思っていて、やっぱり地域に対するデジタル化というところを注視しながらやっているんですけども、まだそこまで至っていませんけれども、ただ、取っかかりで個人的に感じたのは、デジタル改革関連法案が成立したのが去年5月ですものですから、全国的にもなかなか進んでいないというのが実情でして、ただ、そのデジタルというとスマホとかタブレット、パソコンということだけではなくて、改革法案の中には、押印の廃止とかあとは手続の見直し、社会整備というところも当然含まれていますので、そこら辺のところはやっぱりデジタルと一緒に動いているんだということを念頭に置きながら、我々もマイナンバーとかいろんなところであって、決してタブレット、スマートフォンだけじゃないというところをもうちょっと中心に、地域市民との関連をするようなところを行政のシステムの標準化というのは国のほうが多分やってくるので、そこはそこで国に任せておいて、それ以外もう少し押印の廃止とか、そういう社会整備というものを踏まえながら、地域社会との連携、それは当然市民とになってくるんですけども、そういうふうなところも見据えながら調査をさせていただこうと思っていますので、また引き続きよろしくどうぞお願いいたします。

○浜口一利委員長 行政の効率化ということだけ、それを通じて市民の役に立つというような、そのような報告等を期待したいと思いますけれども、ほかにご意見があれば。坂倉委員、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 2班についてはこのようなことでよろしいですか。

引き続き、先ほど言ったように、行政の効率化だけではなくて、それを通じて市民の役に立つような報告をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、2班についてはこういうことで、引き続きの調査をお願いしたいと思います。

それでは、3班、お願いしたいと思いますけれども、3班についての報告についてご意見を伺いたと思います。遊休未利用地の活用についてという報告がされておりますけれども、どうでしょうか。

提言については、この最後のこの文章でいいわけやな。このことについて、皆様方のご意見を伺いたと思います。

調査結果からの政策提言ということで、明確に示されていますけれども、公有財産の見える化の推進、2番にサウンディング型市場調査、読むだけでも大変やけれどもな、PPPの導入推進ということで、政策提言されていますけれども、この内容についてどうでしょうか。

山本委員。

○山本哲也委員 ちょっと横浜市さんとかの活用状況のところ、アンケートとか文書回答をいただけとつたらでいいんですけども、ちょっと教えてほしいなと思ひまして、これポータルサイトを横浜市のほうはこういうふうな形で展開されておるといふことなんですけれども、ここの反響とか、実際に、じゃ、これ掲載して、どこまでどう動きがあったとかといふところまでといふ、いただいていますか回答を。

○浜口一利委員長 河村委員。

○河村 孝委員 調査報告書の15ページの②市有地を活用した成功事例のところの一番最後のところに、昨年度は計19物件の売却となり、歳入確保に寄与していますといふところの回答をいただきましたので、最初も

申し上げたとおり、本当にここは行きたかったんです。生の声を聞いてもっとたくさん質問したかったんですけども、ちょっと時間がタイトで、コロナ禍もあって、視察はちょっと受け入れられませんか、この市有地ポータルサイトの視察受入れがもう行列を成しているぐらい皆さん注目されているというところで、もう手いっぱいというところのこともあって、視察を断られましたので、事務局のほうから我々聞きたいところを文章にして、回答をいただいたんですけども、なかなかこれだけでは分かりにくいところもたくさんあるんで、もしできれば、機会があれば、追加調査でまた行けるタイミングがあれば、横浜市さんの、委員会だけでなく有志でも行って、ぜひ生の声を聞いていきたいなというふうには思っています。

以上です。

○浜口一利委員長 班長さん、よろしいですか。

他にご意見があれば。

濱口委員。

○濱口正久委員 遊休未利用地の有効活用については、これ、ぜひともやらんとあかんことやと、当然皆さん分かってみえると思うんです。今の現状でいくと、本当にこの調査の報告にあるように、全然見えていなくて、ようやく今リスト化されたような状態で、何も計画もなければ、どういうふうに持っていかというのが示されていない中で、それを持っていても何とかせないかんということだけ言うてるだけなので、ぜひともこれは強く進めていただけるようにと思うんですけどもね。これ、でないと始まらんと思います。

○浜口一利委員長 河村委員。

○河村 孝委員 もうデータも総務課は持っているし、資料のほうに貼り付けているように、航空写真もあるんです。それをどうやってがっちゃんこして、しかも一番分かりやすいと思うのは、空き家バンクがせっかくあるんで、空き家バンクをのぞきに來る人たちというのは、じゃ、空き家バンクが駄目なら、自分で土地を探して建てようかというところの志向もあると思うんで、そこにサイトバナーをくっつけて、そこから周知ポータルサイトに入って、しかもそれが、横浜市さんのやっているポータルサイトで、すぐに現況写真へ飛べるんですね。瀬崎委員にまとめてもらったんですけども、そういう意味です。早急のデータ化、公開化、見える化というところがいかに有効にそれを、置いておくのではなくて、みんなが見れる状況に、すぐに見れる状況にするかというのがまず第一歩ではないかというところで、3班のほうには話をさせてもらいました。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

他にごいませんか。

奥村委員、よろしいですか、内容について。

3班さんの政策提言案ということで、戸上委員、これについてはどうでしょうか。

○戸上 健委員 僕、一番勉強になったのは、瀬崎さんがちゃんとまとめていただきましたもので、事務局の努力で大和ハウスを僕らは視察することができました。交流することができました。本当にこれは僕は学ぶところ大でした。鳥羽市の遊休というのは本当に今埋もれておる、眠っておると。ですから、生かせばもう本当にポテンシャルといますかすばらしい、奥が広がるということを確認しました。

その中で、やっぱり行政の力だけではなくて、民間はもう本当に、大和ハウスの話を聞いていますと、各地でいろんな体験といますか先進事例を持っています。こういうモデルケースがあるというのを持っています。

あれをやっぱり市としては取り入れていけば、未利用地、遊休地というのを活性化できるというふうに思いました。

以上です。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

私も聞いていて、行政のほうもこのような方法で進めていくというような準備があるような報告もいただいたところなんで、この3班さんの政策提言があれば、さらに力強く進めるような、後押しになるような、そのような提言につながると思うので。

河村委員。

○河村 孝委員 すみません、ちょっと時間がまだ昼まであるので。

今のサウンディング型の市場調査とPPPの導入推進の件なんですけれども、書いてあるように、これは本来、我々は遊休未利用地というところをテーマにして調査を開始したんですけれども、それだけではなかなか範囲が狭いねというところで、やっていると、やっぱり公有財産にも、普通財産もあり行政財産もあり、今利用されているけれども、もう少しさらに利用価値があるのではないのかというところのテーマも出てきまして、1班さんとのテーマもダブってしまったんですけれども、駅周辺の公有財産をもっとどうやったら生かせるのかというところのテーマも少し考えて、そういった視点でも調査研究させていただきました。

さらに、今現在も廃校によって空いている学校施設、さらに今後の統廃合が進むに当たっての廃校の跡地利用といったところを注目して、特に大和リースさんに民間の目線から意見をいただきたいというところでお話を聞きにいきましたので、調査している段階でも、大和リースさんからも出てきた直近の今のやり方が、まずサウンディング型の市場調査をして、いかに、例えば鳥羽駅周辺なら鳥羽駅周辺の公有財産にどれだけのポテンシャルがあって、こういったことを準備すれば、民間もタッグを組んで民間もお金も出して投資もしながらできますよと、いかにどういったポテンシャルがあるか。さらに学校跡地利用についても、こういうふうにしたら民間さんは乗りやすいですよというところを、そのポテンシャルを調査をするというところがサウンディング型という捉え方なんですけれども、なかなか行政のお金だけでそれをやろうと思っても難しいというところで、いかに民間が入りやすいようにするか。

以前は、それを恐らくプロポーザル型というところで、民間の提案を聞きながら入札ということをやっていたと思うんですけれども、そこでなかなか的を射た方法、プロポーザルの意見が出てこないというところがあって、まずその前段階として、サウンディング型の市場調査を行うべきだと。自分のところにどういうポテンシャルがあるか理解して、ピンポイントでこういった構想があるので、その後プロポーザルにかけるとか、そういう手法が変わってきているらしいんです、トレンドが。

ほかの先進地事例を見ている、かなりサウンディング型の市場調査というのは積極的に進めている自治体もあったので、その辺の意味を込めまして、サウンディング型の市場調査と官民連携のPPPの導入の推進ということになったということです。

以上です。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。

この文言のこともについてもよろしいですか。それと、この政策提言がこの形ですということでもよろしいで

しょうか。

ほかにご意見は、よろしいですか。3班さんの報告については、

よろしいですか。それでは、そのような形で、3班さんの政策提言、行政常任委員会で提言したいと思いません。

本日は、行政常任委員会の提言の確認ということで、どのような形で進めていくか、大変手探りの状況だったんですけども、皆様方のご協力をいただいて、いい政策提言ができると、そのように思っております。また、今日いただいた意見については、各班でもう一度協議していただいて、仕上げていただきたいと思えます。1班さん、3班さん。それと、2班については、引き続き政策提言ができるような形をもって、引き続いて調査をやっていただくということで、なかなか忙しい中ではございますけれども、よろしくお願ひしたいと思えます。

それと、皆様方に確認させていただきたいところなんですけれども、9月27日の本会議での政策提言ということで進めさせていただいておりますけれども、これまで予算決算の提言ということで、議長と委員長の連名で提言させてもらっているんですけども、形としてはそのような形でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○浜口一利委員長 補足、お願いします。

○岩井事務局長 補足だけ、すみません、去年までは予算決算をやって、予算委員長と議長の政策提言という形で、表決日に市長、副市長に提言をしてきましたが、それはそれでやって、今回、行政でやってきましたので、行政の委員長と議長と政策提言、今回3班、三つ分を予算と決算と分けて政策提言という形で持っていきたいかと思いますが、そんな感じでよろしいでしょうか。

○浜口一利委員長 そういうことでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、各1班さん、2班さん、3班さん、引き続いての協議となかろうかと思えますけれども、どうかよろしくお願ひいたします。

本日ご協議いただく内容は、以上で全部になります。

これをもちまして本日の行政常任委員会を散会したいと思います。

どうもありがとうございました。

(午前11時53分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和4年9月9日

行政常任委員長 浜 口 一 利